

【この資料の使い方】

全国学力・学習状況調査問題は、調査の対象学年だけではなく、全学年を通じた学習指導の改善・充実に活用できるものを目指して作成されています。

このことを踏まえ、今年度の調査問題を第1学年や第2学年で学習する内容ごとに分け、「調査問題と学習内容の関連表」としてまとめました。それぞれの単元で学習する際にご活用ください。

【第1学年】 ■ 調査問題と学習内容の関連表

中学校 数学			
問題番号	問題の概要	学習内容	関連する問題と正答率
1	絶対値が3より大きい数を選ぶ	正の数・負の数	H26A1(3)・・・81.3%
2	2けたの自然数を文字を用いた式で表す	文字を用いた式	H22A2(4)・・・67.7%
3	垂線を作図する手順においてふさわしい点を選ぶ	平面図形	H28A4(1)・・・31.1%
5	男子生徒35人がハンドボール投げを行い、記録の中央値が24mだったことについて、正しく記述しているものを選ぶ	資料の散らばりと代表値	H23A13(2)・・・未実施 ※H26 19・・・27.3%
6(1)	4日間で集まった紙パックの枚数を求めるのに、枚数を何に置き換えて考えているかを書く	比例・反比例	H20B3(1)・・・72.3%
6(2)	集まった紙パックの合計の重さを45000gとしたとき、紙パックの枚数の違いがおよそ何枚になるかをグラフから求める方法を説明する		H30B3(3)・・・13.9%
8(1)	待ち時間の範囲を求める	資料の散らばりと代表値	H29A14(1)・・・28.8%
8(2)	ヒストグラムから待ち時間が60分未満の来院者の人数を求める		※H30 18(2)・・・46.4%
8(3)	「60分未満の来院者数は、8時台の方が11時台より多いとは言い切れない」と主張することができる理由を相対度数を用いて説明する		※H26 22(3)・・・32.1%

※大分県学力定着状況調査によるもの

【第2学年】 ■ 調査問題と学習内容の関連表

中学校 数学			
問題番号	問題の概要	学習内容	関連する問題と正答率
4	xの増加量とyの増加量から一次関数の変化の割合を求める	一次関数	H25A11(2)・・・43.3%
7(1)	AF//BEとなることについて根拠となる2つの角を書く	図形の合同	H29A6(1)・・・42.6%
7(2)	調べたことの①と④を基に、予想が成り立つことをいう際に、根拠として用いる平行四辺形になるための条件を選ぶ		H29 A7(2)・・・49.7%
7(3)	△ABCにおいて、∠Bの大きさが90°で、点Eが辺BCの midpoint ならば、四角形ABEFがどのような四角形になるかを説明する		H30 B4(3)・・・43.3%
9(1)	洋平さんの求め方の手順2に対応する計算を連立方程式を解く過程1から選ぶ	連立方程式	H19 B1(1)・・・69.1%
9(2)	里奈さんの求め方の手順3において、わる数の3がどんな数であるかを説明する		H19 B1(2)・・・45.7% H19 B1(3)・・・53.9%

【第3学年での活用例】

調査を実施、または授業で調査問題を活用する。授業で活用する場合は、「一次関数」の問題を「2乗に比例する関数」の変化の割合を求める場面で復習として扱うなどの方法が考えられる。